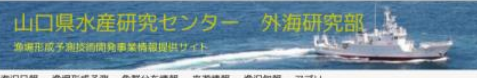


漁場予測の業務をはじめました

近年山口県日本海側ではケンサキイカやマアジの不漁が続き、漁場も不安定になっていくことから、平成25年以降漁場予測技術開発に取組み、平成29年7月から漁場予測業務を開始しました。予測は5～11月の期間に、旬（10日）ごとに公表します。現在はウェブサイト（<http://yama-gaikai.xsrv.jp/wp/>）での情報提供だけでなく、漁協各支店に情報紙を送付するほか、仙崎漁業無線局の協力を得て定時に情報発信しています。関連する水温情報は、毎日情報を更新していますのでどうぞご利用ください。



山口県水産研究センター 外海研究部

漁況日報：山口県周辺海域の表層水温分布。毎日更新（ただし土日祝日は除く）
 漁場形成予測：主に50m水温予測値（各魚種の適水温）と過去の操業データをもとに予測。旬ごと（10日ごと）に更新。
 来遊情報：魚種ごとに近隣の情報を提供。随時更新。
 漁況旬報：マアジ（中型まき網）、ケンサキイカ（一本釣り）、いわし類（繰受網）の山口県日本海側の漁獲量。旬ごと（10日ごと）に更新。

※（一社）漁業情報サービスセンターとの共同研究
 ※当サイトから提供される全ての情報・データは形の如何を問わず、無断で引用・転載・複製を禁じます。また、第三者への複製・無断配布も禁じます。

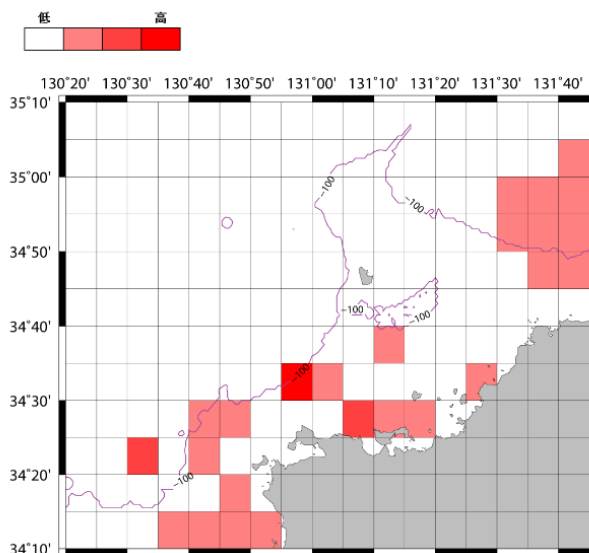


漁場形成予測ケンサキイカ

7月下旬（7/21～31）の漁場形成予測図

Update：2017/07/12

濃い色ほど漁場の形成される可能性が高い



◎目次

- ◇漁場予測の業務をはじめました
- ◇ジャマモク？いいえ、アカモクです
- ◇いつが旬？瀬戸内のマアジ・メバル
- ◇山口県瀬戸内海産魚類405種を確認
- ◇山口県水産研究センター研究発表会を開催

- <外海研究部海洋資源グループ 渡邊俊輝>
- <外海研究部栽培加工グループ 齋藤義之>
- <外海研究部栽培加工グループ 齋藤義之>
- <内海研究部海洋資源グループ 國森拓也>
- <企画情報室 渡邊 直>

ジャマモク？いいえ、アカモクです

毎年、冬から春にかけて海岸線沿いに繁茂する海藻の一つに「アカモク」があります。アカモクは、これまで東北地方や北陸地方などの一部の地域をのぞいて、食用としては利用されてきませんでした。しかし、近年アカモクの持つ様々な機能性（体の調子を整える働き）が注目されています。県内においても、漁業や船の航行の邪魔になるといったことから、「ジャマモク」と呼ばれていましたが、一部の地域で食用として利用されるようになっていきます。

当センターでは、アカモクなどの低未利用海藻の有効利用に関する研究を行っており、アカモク資源量の推定方法の検討や、加工技術に関する指導に取り組んでいます。

今回は、アカモクの特徴や他の似た海藻との見分け方、アカモクを採取する上での注意事項をご紹介します。

アカモクはワカメやヒジキと同じ褐藻の仲間で、雌雄異株、一年生といった特徴があります。採取に適しているのは、冬から春の生殖器床（写真①、②参照）が形成されているものです。このようなアカモクは、加工するとその特徴である粘りが強い製品ができます。

アカモクと似ており、海中では見分けが付きにくい海藻に、ホンダワラがあります。アカモクとは葉や気胞の形が違っており、ここで見分けることができます（写真①、③～⑤参照）。

アカモクは一年生であるという特徴があるため、その年の採取量が翌年の資源量に大きな影響を与える可能性があります。持続的にアカモクを利用するためには、先端から3分の1だけを刈り取ることで、翌年のための種を十分に残すことが重要です。



写真①雄株の生殖器床（細長い）
と葉（葉はギザギザ）



写真②雌株の生殖器床（太く短い）



写真③アカモクの気胞
（気胞は細長い）



写真④ホンダワラの葉
（ギザギザがない）



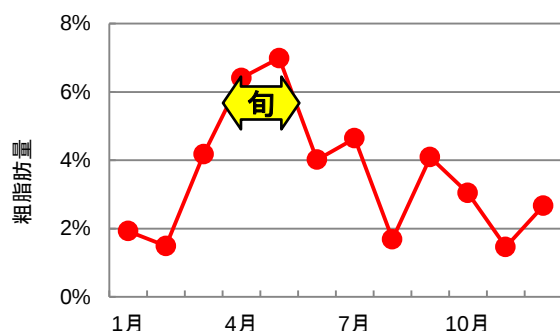
写真⑤ホンダワラの気胞
（丸い）

いつが旬？瀬戸内のマアジ・メバル

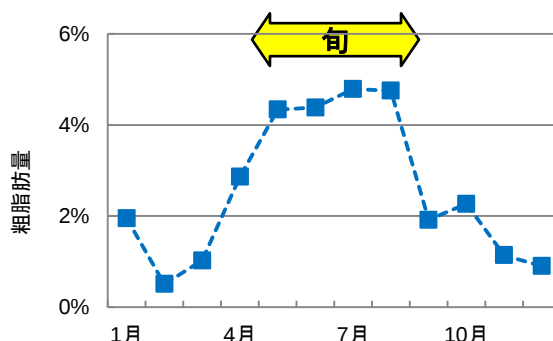
水産研究センターでは平成17年度から、県内産重要魚介類の成分分析を行い、成分特性や旬を把握することで、これらの魚介類をPRするための基礎的なデータを集めています。今回は、瀬戸内海産のマアジとメバルの分析を行いましたので紹介します。

魚の旬や美味しさは多様ですが、脂が乗った時期（＝粗脂肪量の多い時期）を旬であるとする、マアジでは春（4～5月）に、メバルでは春から夏（5～8月）に旬を迎えることがわかりました。

これからも、成分分析の対象魚種を増やし、県内産重要魚介類のPRに役立てていただきたいと思います。



マアジの粗脂肪量の推移



メバルの粗脂肪量の推移

山口県瀬戸内海産魚類405種を確認

水産研究センターでは、山口県瀬戸内海の魚類相を解明するため、既往の文献や未発表資料を整理して、山口県瀬戸内海産魚類目録を作成しました。

その結果、これまで本海域で確認された魚類は、31目143科405種にのぼることが明らかになりました。これは1952～1980年代の採集記録に基づく藤岡（1991）の報告数294種を111種も上回ったことになります。この原因の1つとして、本県日本海域と同様に1990年代以降の水温上昇に伴う新奇暖海性魚類の増加が挙げられます。

なお、センターではマダラ、ソトイワシ等、珍しい魚の情報を継続して収集していますので、見つけた際には内海研究部（TEL 083-984-2116）まで御一報ください。



マダラ（全長44.5cm）、2014年3月11日、防府市野島南西沖で小型底曳網により漁獲



ソトイワシ（全長35cm）、2017年10月12日に防府市牟礼地先で桁網により漁獲

山口県水産研究センター研究発表会を開催

平成30年2月24日（土）山口県防府総合庁舎大会議室において、平成29年度水産研究センター研究発表会を開催しました。

本年度は、内海研究部の研究課題4題について発表しました。内容の一部を紹介しますと、瀬戸内海の重要資源であるハモの漁獲実態と資源動向、1.5haの海水池を使用した施肥によるアサリ20mm種苗の生産技術の開発、カレニア・ミキモトイ赤潮の発生状況とそのメカニズム、カイガラアマノリの陸上養殖技術と干潟養殖との違いについて説明が行われました。

今後も漁業者に密着した試験研究を進めてまいりますので、よろしくお願い致します。

<発表タイトル>

- 1 山口県瀬戸内海におけるハモの漁業と生態について
- 2 海水池を利用したアサリ稚貝の施肥による育成
- 3 カレニア・ミキモトイ赤潮の発生について
- 4 カイガラアマノリの陸上養殖技術の開発について



編集・発行 山口県水産研究センター企画情報室

外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

電話0837-26-0711 email:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

内海研究部 〒754-0839 山口市秋穂二島437-77

電話083-984-2116 email:a16403@pref.yamaguchi.lg.jp